

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890700036
法人名	NPO法人 アクティブボランティアセンター阿蔵の森
事業所名	グループホーム阿蔵の森
所在地	大洲市阿蔵甲1961番地4
自己評価作成日	平成25年 1 月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・山のふもとにあり、立地環境が良く季節感を感じて日光浴・散歩に適している。 ・個々にあわせてゆったりと安心した生活ができるよう努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ●10月の敬老会に合わせて、事業所では初めて「家族会」を開催され、一緒に食事を楽しみました。7家族が参加してくださり、ご家族から「再々面会に来てもいいのですか？」「おまんじゅうを持って来て、本人に食べさせて大丈夫？」等、ご家族が「戸惑っていたこと」等も聞いて、良い機会になったようだ。管理者は、今後も、年1回程度の「家族会」を継続したいと考えておられた。 ●職員が献立を立てて、旬の食材を利用できるよう、野菜、肉、魚は地域の商店から配達してもらったり、畑で野菜を育て食事に使用されている。畑では、夏場は、茄子、ピーマン、キュウリ、冬場は、大根、かぶ、ねぎ等を利用者と一緒に収穫して、新鮮な野菜を使った食事を楽しまれている。肉が苦手な方には、魚に代替えされたり、体重増加が気になる利用者の方には、野菜を多めにして、ご飯の量を減らす等、盛り方等も工夫して見た目にも気を付けておられる。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム阿蔵の森

(ユニット名) A

記入者(管理者)
氏名 岡山 節子

評価完了日 平成25年 1月 4日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「あたたかい手」「明るい笑顔」「やすらぎの空間」という理念の基に、グループホーム全体で月に一回ミーティングを行っている。	
			(外部評価) 玄関先や居間に理念を掲示して、来訪者にも事業所の理念を知ってもらえるよう取り組んでおられる。職員は、理念の実践に向けて「日々笑顔で利用者に接すること」を心がけておられ、特に、「ゆとりを持って利用者のお話を聞く」ことに取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 小学校の運動会、地区の盆踊り、保育園児が来所していただいたりと、参加・見学を行っている。	
			(外部評価) 中学生が福祉体験の授業で、1日3～4人ずつ4日間に分けて来られた。生徒は、利用者と一緒に福笑いや折り紙等、昔の遊びを楽しんだり、一緒に散歩して過ごされた。利用者は、いきいきとした様子で生徒とふれ合われて、「将来の夢は何？」と、生徒に質問するような様子もみられたようだ。今年も小学校で収穫したもち米をいただき、2月の事業所開設記念日には、餅つきして近所の方達に配ることを予定されている。管理者は、今年の「田植えや稲刈り等、小学生のもち米作りの様子を見学に行きたい」と話しておられた。近所を散歩中、近所の方とあいさつを交わしたり、時には、お花の球根をもらったり、季節によってはイチジクをおすそ分けしてくださる方もあり、利用者は、「前にイチジクをもらったね」と、時々話題になるようだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議を活用して、公民館、小学校、他グループホームからのイベント等のお誘いを受けたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に1度行っている。</p> <p>(外部評価) 会議時、事業所から「車いすを使用する利用者の外出支援が難しい」ことを相談された際、近くの小学校の校長先生から「みんなで外出できるようホームで努力をしてみてもいいですか？」と励ましや意見をいただいたことが、外出してみるきっかけとなった。ベッドで横になって過ごす時間が長い方も一緒に出かけられ、レストランでは、「ものすごくおいしかった」と感想が聞けたことに、職員は感動されたようだ。管理者は、「会議の時に言っていたので、思い切って取り組むことができた」と振り返っておられ、今後も努力を重ね、外出できるよう支援していきたいと話しておられた。</p>	<p>管理者は、今後、会議に福祉に詳しい方や民生委員の方にも参加を呼びかけ、「地域行事や地域の高齢者の現状について教えていただきたい」と考えておられた。今後さらに、会議メンバーやすすめ方等も工夫して、会議を通じて、地域の知り合いを増やし、協力関係を築いていかれてほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 定期的に連絡会・勉強会が開かれる。市町村と連携を取り質の向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 気ままたち出かける利用者の支援について、市の担当者の方に相談された際には、「危険場所を把握するように」「事故が起きた時の対応について」等、アドバイスをいただいた。月に1回、介護相談員の訪問を受け入れておられたが、訪問時間と、利用者の生活パターンが合わず、2月から休止とされていた。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 無断外出される入居者に対して家族へ説明、理解して頂くようにしている。</p> <p>(外部評価) 玄関は施錠せず、出入りできるようになっている。「家に帰りたい」「散歩がしたい」と希望する利用者も複数おられる。中には、職員が散歩に付き添うことを「監視されているようで嫌だ」と言われる方もおられ、職員は、ご本人に分らないようそっと付き添うこともある。訪問調査時の昼食後、事業所の周辺を散歩する利用者の様子を職員は、窓から確認されていた。又、ご自分で車いすを自走して玄関先に出て、外の様子を見たりして、気分転換されている方もおられた。夜間ベッドからの転落が心配な方には、事業所からご家族に状態を説明して許可を得てから、ご本人が眠っている時のみ4点柵を付けるようにされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 市の職員に相談にのってもらっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度に関する勉強会は出来ていないと思う。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分に説明して納得された上で捺印、サインして貰っている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 出来ている。面会時に声かけを行い、利用者様の近況報告をし、ご家族とのコミュニケーションを図るよう努めている。 (外部評価) 10月の敬老会に合わせて、事業所では初めて「家族会」を開催され、一緒に食事を楽しまれた。7家族が参加していただき、ご家族から「再々面会に来てもいいのですか?」「おまんじゅうを持って来て、本人に食べさせても大丈夫?」等、ご家族が「戸惑っていたこと」等も聞けて、良い機会になったようだ。管理者は、今後も、年1回程度の「家族会」を継続したいと考えておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			定期的にミーティングの機会を設けている。	
			(外部評価)	
			今年1年間、職員個々に、毎月の目標を立てて取り組みをすすめていかれた。職員は、毎月、目標達成度を振り返り、悩みごと等も用紙に記入して管理者に提出されている。管理者は、それぞれにコメントを付けたり、アドバイス等しながら職員を応援されている。職員は、管理者に意見を聞いてもらえることや夜勤中に困った時、すぐに駆け付けてくれることを心強く思っておられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			現在は個々の評価は行っていないが、今後各自での面接等を行い、給与水準に反映していく。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修を受ける機会も確保できており、レポート提出により他職員も共に学びの場を作ることができている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			定期的にミーティング実施。他施設への見学等行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			出来ている。ゆっくりとコミュニケーションをとれる時間を作り、ご本人の不安を取り除き安心して生活して頂けるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面会に来られた時に話を聞いたりしている。あまり面会に来られない家族には意見書を書いて郵送している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前にアセスメント等を行い、把握して、本人・家族等に合ったサービスを提供するよう心がけている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 若い頃の話や体験談などを聞いたり、いろいろな事を教えていただいている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の希望に沿うように対応している。また、自宅にいる時のような環境づくりに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居者が家族に連絡して欲しいと訴えがあれば連絡している。会いたいと訴えがあれば面会に来ていただいている。 (外部評価) お気に入りの髪型のある方は、その髪型に散髪してくれる理髪店を探して、希望に添えるよう支援されている。友人が面会に来られ、お互いが「元気なかい？」と、からだを気遣うような場面もみられるようだ。海の近くに住んでいた利用者は、「海に行きたい」と希望されることがあり、管理者は、「利用者一人ひとりの懐かしい場所等に出かけてみることも計画したい」と考えておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者一人ひとりの性格を把握しいろいろな手伝いを協力してもらっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 医療機関、家族と情報提供や話し合いが出来る様に連携をとっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 自分の意思表示が出来る方には実現できることは実施し、出来ない方には家族からの情報や日頃の言動で把握するよう努めている。 (外部評価) 職員は、入浴時や散歩等、利用者とは1対1になる時間を大切にして、ゆっくりコミュニケーションを図ることに努めておられ、利用者は、お若い頃のお話をよくされるようだ。職員の情報は、月1回のミーティング時に、口頭で共有されている。	日々の生活の中で知り得た利用者一人ひとりの情報を蓄積できるよう、アセスメントツールを工夫されてはどうか。利用者から得た情報を介護計画に反映するような仕組みを作り、利用者らしい暮らしが続けられるよう、支援していかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査によって本人・家族から出来るだけ詳しく聞き、ケアプランに反映している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの日常生活を観察し、状況を分かりやすく記録している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>サービス担当社会を開き、入居者及び家族の意見を聞き入居者が安心して生活出来るよう、介護計画を立てている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>3ヶ月毎に介護計画を見直しておられる。「体重増加が気になる」ご家族と、「食事が楽しみ」な利用者の気持ちの折り合いを付け、介護計画には運動する機会を作ったり、野菜の多い食事ができるように支援することを盛り込んでいる事例がある。今後さらに、ご家族や利用者にかかわる方達と話し合いながら、介護計画を作成できるような仕組み作り等もすすめてみてほしい。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個々の生活や健康面の状況を明確に記録し、その情報をミーティングで共有することによって、介護計画に活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人や家族のご要望があれば買い物やドライブへ行ったりしている。利用者のカットや毛染めもご本人と家族の希望に合わせて行っている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>併設のデイサービスにおいてボランティアの来所があれば参加している。小学校より学校行事の案内をいただいたり、地区の盆踊り等の案内をいただくので希望者は参加している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) ご本人ご家族が希望される病院へは、ご家族が付き添われているが、難しい方はスタッフが付き添っている。ご家族が事業所に任せる場合は24時間体制で提携している協力病院を活用し2週間に1回往診に来られている。</p> <p>(外部評価) 協力医をかかりつけ医としている方は、2週間に1回、往診を受けられている。緊急時にも対応していただけるようになっていいる。他科受診の必要があれば、紹介状を書いてくださる。受診は基本的にご家族が付き添われるが、難しい場合には職員が同行して支援されている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 内科医が月2回往診に来られており、外科医、歯科医ともいつでも相談出来るよう協力している</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 医療機関と情報交換に努めており、早期に退院できるよう協力している。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者の状態の変化時には家族に報告し、主治医の指示を受けながら行っている。</p> <p>(外部評価) 事業所は、市から、「看取りを行う場合には正看護師2名の配置が必要」と指導を受けているようだ。現在は、職員配置に難しさがあり、入居契約時には、利用者やご家族に「事業所では看取り支援ができない」と話しておられる。さらに、利用者主体の暮らしを支えていくためにも、市や市内の他グループホーム等とも終末期支援のあり方について、話し合うような機会を作ってみてはどうだろうか。又、利用者やご家族の希望等も聞いてみてはどうだろうか。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的な訓練は行っていない。主治医・看護師の指示を受けながら実践力を身に付けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、定期的に避難訓練を行っている。	
			(外部評価) 昨年12月の夜間想定火災避難訓練時には、実際に利用者全員を避難させる訓練に初めて取り組まれた。利用者の誘導の順番によっては、避難が思うようにすすまないこともあり、管理者は今後、避難方法について、「避難誘導の順番を考え直したい」と話しておられた。台風発生時、近くの川が氾濫する危険があると、避難指示が出たことがあるが、職員は「どうしたらいいのかと戸惑った」ようだ。	火災だけでなく、日頃からいろいろな災害(地震、風水害)に備えた避難訓練に、繰り返し取り組まれてほしい。災害時の避難場所を今一度確認されたり、避難時の移動手段や役割、手順、避難方法等、運営推進会議の機会等を活かして、地域の方達とも話し合ってみてはどうだろうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) その場、その場の状況に応じた言葉かけや対応が出来る様に努力している。	
			(外部評価) 職員の言葉かけについてご家族から指摘があり、職員で話し合い、毎月、職員個々に言葉かけについて自己点検する取り組みを始めた。職員トイレ内には、「言っはいけないこと」を掲示されていた。食後、「まだ食べてない」と言われる利用者に、一緒に食事した利用者が、「さっき一緒に食べたよ」と言われると、ご本人が納得するような場面が多くみられることが分かり、管理者は、普段から利用者同士のかかわりを大事に考えながら取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ゆっくり話を聞き、言葉を引き出したり、話の先取りをしないようにしながら自己決定できるように働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事や入浴に関しても一人ひとりの希望を優先し、無理強いないように心がけ、穏やかに過ごせるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 上衣、ズボンの組み合わせに配慮したり、髪をカットして清潔に保ち、おしゃれが出来るように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員と利用者が会話を楽しみながら、一緒に食事をとっている。準備や片付けの出来る利用者には職員と一緒にいる。 (外部評価) 職員が献立を立てて、旬の食材を利用できるよう、野菜、肉、魚は地域の商店から配達してもらったり、畑で野菜を育て食事に使用されている。畑では、夏場は、茄子、ピーマン、キュウリ、冬場は、大根、かぶ、ねぎ等を利用者と一緒に収穫して、新鮮な野菜を使った食事を楽しんでいる。つわもろやつくしをいただくこともあり、利用者が皮をむく等されている。肉が苦手な方には、魚に代替えされたり、体重増加が気になる利用者の方には、野菜を多めにし、ご飯の量を減らす等、盛り方等も工夫して見た目にも気を付けておられる。お誕生日には、ご本人に食べたいものをお聞きして、好きなものでお祝いをされている。訪問調査時、食事がすすまない方に他の利用者が声をかけてあげていた。食後にお膳を下げている利用者もみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量もチェックをしている。水分摂取量についても記録を残しながらチェックしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後心がけているが、夕食後の口腔ケアは行っている。出来ない時もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立に向けた排泄支援を行っている。	
			(外部評価)	
			よく動く様子がみられた時は、排便のサインという方もあり、職員は、個々のサインを見逃さないようにトイレへ誘導されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			飲食物の工夫と個々にあった運動を行い、便秘の予防に努めている。	
			(外部評価)	
			利用者の希望に応じてゆっくりと入浴ができるように配慮している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			利用者の希望に応じてゆっくりと入浴ができるように配慮している。	
			(外部評価)	
			利用者個々に、週2~3回入浴できるよう支援されている。個々の居室の洗面所には、シャンプー、リンス、ボディソープ等が入ったかごを置いておられ、入浴時に持って行かれる。入浴剤を入れて楽しめることもある。寒い時期には、温風ヒーターで脱衣所を温めてから支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			夜眠れない利用者に対しては散歩など日中の活動量を増やしたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋を確認し、薬の目的を理解するように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 子供の頃の昔の遊びを思い出し、楽しんでいただく(花札等)洗濯を干したり、洗い物をしていただく。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 暖かい日は日光浴をしていただく。足湯、花見、ドライブ等出掛け楽しんでいただいている。顔がイキイキされる。	
			(外部評価) 天気の良い日は、外で日光浴をしたり、散歩をされている。季節の花を見に行かれたり、内子の笹祭り等にも出かけられた。職員は、「利用者の誕生日等の機会に、利用者と一緒に好きな場所へ出かけたい」と話しておられた。又、管理者は、年1~2回は、利用者全員で外出する機会を作りたいと話しておられた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) スーパーへ行き、好みのお菓子等買って楽しんでもらう。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族に電話して話していただく。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共用空間には季節感を取り入れた壁飾りや写真、テレビがあり楽しく過ごせるよう工夫されている。</p> <p>(外部評価) 玄関先には、さざんかの花を生けておられた。居間横には畳の部屋があり、訪問調査時には、横になって休む利用者の様子がみられた。ご家族より「ホーム内が寒いのではないかと」意見があり、暖房を24～25度に設定された。又、「お寒いようなら声を掛けてください」と張り紙をされている。居間の壁には、利用者の塗り絵作品を飾っておられ、ご自分の作品を眺めて楽しむ方もおられる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ホールには畳の居間や、ソファが置いてあり、個々の好きな場所で過ごしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 今までに使い慣れた家具等を居室に配置し、居心地よく過ごしていただいている。</p> <p>(外部評価) ご自宅からお気に入りの椅子を持って来られていたり、植物がお好きな方は、観葉植物を置いて世話されている。ぬいぐるみが好きな方はベッドに置いておられたり、目の不自由な方は、部屋でラジオを聴いて過ごしておられる。本がお好きな利用者には、ご家族がご本人の好みそうな本を持って来られている。息子さんが来られた日を忘れないように、利用者がカレンダーに、「息子来た」と記入している方がおられ、時々、職員と一緒に確認されている。夜間、廊下や居間からの明かりが気になる方には、職員が居室入口のガラス窓にタオルを掛けておられた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりの出来る事をして頂き、できない所だけ援助している。</p>	